

積極性と 独自性を 大切に

マリッジ農業女子

PROFILE

ね ぎ し さ と み
根岸 聡美さん

野菜・ハーブ農家
就農歴10年(板倉町)

東京都世田谷区出身。品種改良の研究に興味を持ち農業大学の併設高校に進学。大学では人間・植物関係学を学ぶ。在学中に知り合ったご主人・弘和さんとの結婚を機に群馬県板倉町に移住。ご主人の実家を手伝うカタチで農業を開始。

豊かな心を育む恵まれた環境での暮らし 農業を通して地域の活性化にも貢献していきたい!

家族の理解と協力が結婚就農の支え

「ミラネルファーム尚香園」で、露地野菜や米、施設でのハーブ苗生産を夫婦二人三脚で行う聡美さん。農家の長男として生まれた夫・弘和さんとの結婚を機に、群馬県板倉町に移住して農業をスタート。弘和さんとの出会いは農業大学の研究室でした。

就農した当初、聡美さんのお腹には赤ちゃんがいたため、まずは子育てを優先。弘和さんのお父さんの下でハウスのかん水(水やり)など、簡単な作業をお手伝いしていたそうです。また当初の1年間弘和さんは地元で非常勤講師をしていたため、実家の農業との二足のわらじを履いていました。その後は弘和さんも農業に専念し、4~5年は両親の元で農業技術を学ぶ期間を経て、夫婦で農業をスタートさせました。この頃から徐々に、夫婦の生活スタイルも変化していきました。「主人の実家に入った当初、子育てで農作業が出来

ない分、私が家族の食事づくりを担当していました。ただ、農家というのは季節や天候で仕事の時間が変わるので食事の時間もマチマチ。農業に専念する両親や祖父母たちと、子どもの生活時間の違いに少し戸惑いました。夏場は、暑い日中は休んで夕方から夜まで作業をするので、夕飯が8時を過ぎてしまうこともあります。二人目の妊娠時に食事の準備や作り分け等の負担が大きくなったため、両親と主人の配慮で生活を別々にしました。家庭内世帯分離みたいな感じですかね。」自分たちのペースで出来るようになった事で心にゆとりが生まれ、同時に夫婦で支えあいながらしっかりやっていたかなければという自覚が芽生えたと聡美さんは話します。夫婦で栽培に取り組んでいる野菜について品目ごとにエコファーマーの申請を行い、2006年に認定されました。